

みなさんの考えシート(まとめ)

【質問】

①こどもの権利について、大切だと思う事、守られている・守られていないことは？

②①のこどもの権利を保障するためにはどのような人・団体・施設等が何をすれば、また、どのようになればよいと思いますか？

【回答】

○安心して生きる(生命、心身共に健やか)

→親が難しい場合も、そばにいる大人の対応で希望につながることも。意見表明権にもつながるが、いろんなところに大人がちゃんといることが大切。いくつものセーフティネットが重なっていればどこかにつながる。

○実は子どもが好きで大切に思っている人は多い

→子どものことを考えて動く人、団体が情報共有できる場。
子どものための団体の情報発信が子どもにとどくような仕組みづくり。

○こどもの気持ちが尊重される

→こどもが安心して過ごせる環境(家庭、学校、地域で)
自分の気持ちを自分で感じられることが大切

○こどものやりたいことが選べるできる

→どうしたらやりたいことができるのか。一緒に考えてくれる大人。
やりたいことを否定されない環境。

○子どもが自分の意見を聴かれた(きいてもらえた)と実感できること

→学校、家庭、オンブズマンなどの第三者など。
あらゆるところでの工夫が必要。

○こどもの考え、意見をきいてもらえる場が少ない

→子どもの意見に耳をかたむける時間・場所が地域に増えるとよい。
大人だけが集まって決めるものが多く、地域のことを話し合うのに子どもを交えても良いのではと思う事が多々ある。

○自分の意見、考えを伝えられる環境づくりが大切だと思う

→意見を伝えられるツール、ご意見箱的なものの設置。
意見を聞いてくれる人、場所、しくみ作り

意見を言わなくても良い状態、状況もあり

○こどもの話を聴く

→こどもの話をこどもを尊重して聴ける人材、場所、時間

○休息・余暇・あそび・文化（子ども権利条約3条）

→あそべる（場所・人）

ばーっと

文化、人に出会う

休みがある、自由裁量

○あそび権利が保障されること（あたりまえのようで意外と難しい現実）

→暑さで外で遊ぶのも制限される…子どもが自分で気楽にあそびに行ける距離に屋内施設が必要。

集団であそんだり、冒険要素のあそびができるための大人や場所

あそびながら、いろんな人と場を共有することを子どももおぼえる

○小学生及び幼児がアクティブに遊べる場所

→地区の運動公園をもう少しオープンに活用できないか？

市内に室内プールの設置。

○文化、芸術に触れる機会を多く

→市民ホールがあれば触れる機会が多くなる。

地域の文化に興味をもてるようになるには？

色々な地元の方々との交流。

○休息、余暇が守られていない、そもそも休息、余暇の意味を知らない

→子どもの頃から人権教育。

世代がまわっていくこと。

○子どもの権利を知る事

→学校で教える。

地域で学ぶ。

○学校教育

→国が根本的な方向転換。

○自分の意見を言う事

→自分のことを知る事。

自分の考えや意見を言うことに慣れていないので子ども会議など

○子どもが権利を知ること（保障し合うものだよー）

…自分だけにあるものでも、相手だけにあるものでもない、子ども同士大

人同士

→子ども達が幼少期から、こどもの権利について学べること。

今の大人も学んできていないから、大人達も学ぶこと。

…生活の中にちりばめられているような状態

○競争原理が強すぎる

→社会的な規制

○こどもを尊重すること

→学びの場を学区の学校に指定してほしい。

自治体の他に不登校の居場所をつくる。

大人が学ぶこと。→学校や地域で会を開く

○大人の都合が優先されがち

→学校や家庭では、大人が予定や計画をたてているが、子どもの意見をとりあげた方がいい。

よい結果を求める大人たちを減らす。なんでもないことをほめられるように大人たちのしゃべり場も必要と考える。

○選択肢を知ること

→色んな人、考えに触れる機会を増やす。

○2条：「差別の禁止」

23条：「障害のある子どもの権利」

…病気などをもつ子どもの意見を尊重し、疎外感を感じさせないまちづくり。

○子どもが安心して安全に自分の意見を言える、意見の表明

→親…こどもの権利について知る場所

学校の先生（特に小学校）…もっと学習する

子ども…誰にでもその権利があるという事を知る、教えてくれる場所

○こどもの将来・未来・こどもの気持ち（こどもを尊重する）

→選択肢を増やす。学校が選べる（行くか行かないかも）。

少人数制とか多人数がいいとか。

居場所が東西何億にほしい。

縦割りの行政や予算UP

…大人が責任をとる

○こどもの将来・未来をせばめないために

→選択肢を減らさないように。

学校が選べる。

少人数制(10~15~エディケーション)

東西南北に居場所

…大人が責任をとる

○19条:「虐待・放任からの保護」

28条:「教育を受ける権利」

…保護者や教職員の安心安全を守ること、子どもの安心安全が守られる

○下校時の防災無線を使った放送

→低学年も地域も安心感があつてよいが、高学年の子は授業中に放送されるのがイヤだと話していた。1日に2回放送があつても良いのでは？

…自治体できる

○自分が大人になったときにどんな街・地域になってほしいか

→学校や市役所など、子供たちのビジョンをたくさん聞く場をつくる、ふやす。

○やりたいことをおうちの経済状況とか無理解とかであきらめる

○自分の気持ちを言う、表現する

→表現をうけとめる、大人の存在。

大人がそのことを大切だと思う。

○ぼんやりすること、ダラダラするひまがない

→学校などにこーそくされる時間が長すぎるかも。

宿題とかなくす。「やらなければならない」ことをなくす

ぼーっとしている子をがまんして見ていられる大人が増える。

将来を心配しなくてよくなる。

○こどもたちが判断することのできる社会・教育

→こども時代に培うことの大切なこと。自分でうごく、さわる、体験する、ふれあうなどの場、相手、時間の確保…豊かな児童館

○教育、不登校の子が教育を受けられないのでは？

→小学校、中学校が選べるといいのではないかと。…自分に合った学校があると不登校も減り、教育を受けられる。

そのためにはそれぞれの小学校、中学校が特色のある学校にすると良いと思う。

教員を増やす。1クラスの人数が多すぎるため、担任が見きれない。

教員1名につき児童10名くらいに擦れば細かく見られると思う。

○こどもの声は届きにくい

→否定しないで聞いてくれる大人の存在。

声を届けるしくみを作って知らせる。(困ったことや疑問に思うこととか)

いろんな機関の連携。

○生活の支援…経験のかたより

→色々な経験が無料または、安価で体験できるようになると良いなと。

「国全体で子どもを育てる」という意識に。

○健康と安全、差別なし

→心の健康、体の健康、安全を見逃さない、大人のゆとり、専門性、連携、障がい等々がまんすることない社会のつながり、心のバリアフリー社会。

○個々で持ち味、特性はちがうと認め合うこと

→「同じことをしなければならない」という日本の教育その者を見直すこと。

教育する側のスキルアップと連携。

教育予算増。

○孤立している子どもをなくす…家庭、学校、地域でひとりぼっちの子どもをつくらない

→街で会った時は大人は子どもに声をかける。

子どもはできるだけ返事をする。

挨拶を通じて、元気安心安全笑顔のきずなをつくる。